

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 筒井 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「読むこと」の領域は、全国平均正答率より高かった。しかし「書くこと」や「我が国の言語文化に関する事項」に関して、課題が見られた。
	よくできた問題	必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉える問題 文章表現の効果を考える問題
	努力が必要な問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題、互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的に正答率が高かった。特に「数と計算」においては、全国平均正答率より高い傾向にあった。しかし、「変化と関係」に、やや課題が見られた。
	よくできた問題	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて求め方を記述する問題 示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す問題
	努力が必要な問題	示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する問題 百分率で表された割合を分数で表したり、基準量や日関係を求める問題
理科	全体的な傾向や特徴など	「エネルギー」を柱とする領域及び「地球」を柱とする領域は全国平均正答率より高かったが、「粒子」を柱とする領域と「生命」を柱とする領域に課題が見られた。
	よくできた問題	光の性質を基にした問題 実験で得た結果から分析して自分の考えを記述する問題
	努力が必要な問題	メスシリンダーの使い方の問題 自分で行った観察から収集した情報と追加された情報を基に問題に対するまとめを検討、改善し記述する問題

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・放課後や週末の過ごし方として、「習い事やスポーツを行っている」や「学習塾に通っている」「家で勉強や読書をしている」が全国平均を上回っていた。また、「地域の行事に参加している」項目も全国平均を上回っていた。さらに「地域や社会をよくするために何をすべきか考えている」はかなり高い数値であった。 ・読書に関して、読書好きな子どもの比率が高かった。1日30分以上読書をしている割合も全国平均を上回っていた。 ・「友達と意見を交流すること」「友達と協力すること」「人の役に立ちたい」に関する児童の肯定的回答が全国平均を上回っている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・朝自習では、「読書タイム」「算数タイム」「視写タイム」を毎週取り組んでいる。各単元の復習ができるよう、問題を準備し主体的に取り組むことができるよう工夫している。
 ・スタンダード型授業の徹底を図るため、授業改善ができるよう研修を行っている。振り返りの仕方が少しずつ定着している。
 ・主体的・対話的で深い学びになるよう、グループでの交流活動や体験を取り入れるようにしている。コロナ禍であっても配置や道具を工夫して行うようにしている。学力調査の結果を分析し、全職員での共通理解を図り、改善に役立てている。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・スマホやテレビゲーム、SNSに費やす時間が長い傾向にある。目の健康被害やネットトラブル等に関する情報を家庭に提供するようにする。
 ・家庭における自主学習の取り組みを充実させたり、外部講師の招聘なども視野に入れ、自主学習にもつながるキャリア教育の充実にも努めたりする。